長期的な収穫が可能！露地用・支柱・地這兼用種の決定版

夏のおくりもの　キュウリ

神奈川県では消費地に近い立地を生かして、直売所出荷が盛んですが、キュウリは直売所や家庭菜園を彩る品目として欠かせません。従来品種では、その特性に一長一短がありましたが、「夏のおくりもの」は、直売所出荷や家庭菜園の栽培で求められる耐病性の強さ、収量性の高さ、食味の良さを高次元で兼ね備えた品種です。

Point1

病気に強い！

ウイルス病（ZYMV）に耐病性あり。
うどんこ病、べと病にも強いです！

Point2

収穫期間が長く、高い秀品率を持続！

とれ始めからしっかり長さのある果実がとれるので、初期収量よし！
奇形果の発生が少なく、最初の収穫から2か月経っても形の良い果実がよくとれます！

Point3

味に自信あり！

まずはそのままかじってみて下さい！
青臭くなく、水分とともに口の中にうま味がじわっと広がります。

「夏のおくりもの」栽培の様子（8月下旬頃撮影）

Point4

栽培のポイント

①基肥は緩効性の有機質肥料を主体とし、定植1週間前までに耕転･畝立てをしておく。
②本葉2.5~3枚の苗を定植する。定植後は充分潅水を行い、活着を促進させ、樹を充実させる。
③収穫開始時より追肥を始め、肥料切れを起こさないように早めの追肥を心がける。
④成り疲れ、高温、水分不足や肥料切れによる曲がり果、尻太果が発生した場合は早めに摘果を行い、草勢の回復を図る。
⑤安定した草勢を維持するため、主枝下段7~8節位までの側枝と雌花は除去する。また、必ず成長点を2~3本確保する。

まずはお試しあるのみ！　詳細はP11へ！